町内の会社紹介します

神山食品工業株式会社

所在地　長　塚

代表取締役社長　神山茂郎

工事中のトンネルフリーザー

毎日食品の厳しい検査が行われる

神山食品工業株式会社は、冷凍魚（主に鮭・鱒）の切身を中心に、辛子明太子・魚の煮つけなどの加工品を製造している会社です。

原料の大半は、カナダ、アラスカを始め、外国からの輸入品が主で、下処理を施し、船内凍結（保存温度-20°～-30°）されたものが使用されます。

出来上った製品は主にユーザー問屋などに出荷され、コンビニエンスストアーなどに並んでいるお弁当の惣菜や、おにぎりの具としてみなさんのお手元に届きます。

最近は、たん白源として魚の価値が見直されてきているため、学校給食用、生協の購入品としての需要が増えているため、こうした需要に応じ、製品の向上と経営の合理化を図るために三月末にトンネルフリーザー（日本中でも十台しかない）を導入し、現在工事中で四月中旬には稼動する予定だそうです。このフリーザーの導入により従来一行程二十四時間かかったものが十分の一に時間の短縮がされるため、会社では大きな期待を寄せているとのことです。

昭和五十七年十二月に東京から当町に移転、以来四年数ヵ月の間に頭初の売上げを数倍も上回る伸びを見せているそうで、「将来に向けて尚一層、みんなの力を結集して取り組んで行きたい」と話されていました。

町長ひとりごと

斉藤　譲

先月の初旬、町の学校給食センター所長行方敏逸君が死去した。齢四十二歳を迎えたばかりのあまりにも若すぎて惜しみある死であった。死因は膵炎である。彼は役場に就職して二十二年になるが、生来まじめで仕事一途に打ちこみ将来を期待されていた幹部職員であった。

ちょうど今年は給食センターの施設を大改修し、従来の弁当箱方式から食缶方式に改め、給食内容の充実を図る計画を樹て、彼は早くからこの実施のための準備に意欲的に取り組んでいた。そんな矢先に病魔に冒され、病床の中から私の手を握り、早く復帰をして準備を進めたいと、まるでものに取憑かれたように熱っぽく語っていた姿がいまでも忘れられない。

若い妻や子供、年老いた両親、そして情熱を注いだ仕事に限りない未練を残しながら果しない浄土へと旅立った彼の無念さを思えば、正に断腸の思いであり語る言葉すらない。いまはただ静かに彼の冥福を祈るばかりである。

生あるものは必ず滅びる。これはいかなる術を用いようと覆すことのできない自然の摂理である。とはいえ、同じ死を迎えるなら後顧の憂いなく心安らかに迎えたいと願うのは誰しも同じであろう。まして人生八十年時代になって途半でこれを迎えたなら、とてもそんな心境にはなれるものではない。

人は誰でも常に生に対する強い執着をもっているが、それにしては生の原点である自分の健康に余りにも無頓着である者が多い。

ＮＨＫの人気番組で鈴木アナウンサーが使う「健康は、人間が自分に贈ることのできる最高の贈りものである」という言葉は正に名言である。

町は、住民の健康づくり事業の一環として各種の検診事業を早くから積極的に推進している。

最近はかなり理解が深まり住民健診の受診率は七十パーセントを超えるまでになったが、四十歳以上を対象とする血液、尿検査が主体の一般検診は六十パーセントと低い。疾病率の高くなる階層で、しかも一家の主柱となる人達こそ積極的な受診が必要である。健康づくりは、まず自分自身の自覚から出発しなければならない。現代人は、複雑多岐でめまぐるしく変化する生活の中でかなりのストレスを抱えて生きている。健康は、心の安定のうえに築かれるものであり、いつでも心にゆとりをもつことが最も大切であると思う。身近な一人の職員の死に直面し、健康の大切さとありがたさをつくづくと感じるこの頃である。